



理論は後から覚えるフレーズ弾きまくり実践教本

# JAZZ GUITAR

## ジャズギター アドリブの最短距離

ロックギターから  
ジャズギターへの第一歩

加藤 泉 監  
池元 隆通 著





## PART3 Arpeggio & Scale

### ダイアトニックコード アルペジオ 5 ポジション ..... 48

Maj7  
m7  
7th  
m7<sup>b</sup>5

### スケール 5 ポジション ..... 55

メジャースケール  
ドリアンスケール  
フリジアンスケール  
リディアンスケール  
ミクソリディアンスケール  
エオリアンスケール  
ロクリアンスケール

### メロディックマイナー系 3つのスケールの関係 ..... 64

オルタード ドミナント スケール  
リディアン ドミナント 7th スケール  
ハーモニックマイナースケール パーフェクト 5th ビロウ (HP5)  
コンビネーション オブ デミニッシュド スケール  
ホールトーン スケール  
ディミニッシュド スケール

### 各コードタイプの対応スケール表 ..... 72

## PART4

## Blues&Rhythm Changes スタANDARD曲

### Blues ..... 76

Straight No Chaser  
Blue Monk  
Tenor Madness

### Rhythm Changes ..... 85

Oleo  
Rhythm-A-Ning

# ジャズギターアドリヴの最短距離！

～ロックギタリストからジャズギタリストへの道～

この本でいう「ジャズ」は、ビバップと呼ばれる、チャーリー・パーカーを筆頭に作り出された、一般的に『最もジャズを感じるスタイル』を指します。ビバップをプレイする人は「ビバッパー」、「バッパー」などと呼ばれたりします。ギタリストではジョー・パスやバーニー・ケッセルなどがバッパーでしょう。「ジャズギターを弾きたい!」と思った人の中には、ギター経験者でロックなどを弾いてた人が多いと思います。そのなかでアドリヴを経験してる人も多いと思いますが、

「ジャズいフレージングができない」「ジャズには劣等感がある」「あいつは何でジャズができるんだ?」

こんな思いをしてる人がゴロゴロいます。しかし、もうこのネガティブな感情とは決別する時がやってきました! 本書で、筆者が試行錯誤した結果得た、ジャズギターアドリヴへの最短距離を伝授します!  
この本をマスターした時、あなたは周りの仲間から、

「あれ?あいつ最近ジャズくない?」「なんか、あいつ大人だな」

と言われるようになっていくことでしょう! そして、

「やべっ! オレもしかしてジャズメン?」

と、独り言をつぶやいてるかもしれません(笑)

本書を手にとったあなたに、まず第一に伝えたい事は、『ジャズギターアドリヴへの最短距離の道』は、頭で理解するだけでなく、必ず、その道を歩いてください、という事です。ギターがある程度弾ける人ほど、理屈さえわかればすぐに弾けるようになると思ってしまいがちです。ロックのフレーズはギターでは弾きやすいものが多いですが、ジャズ(ビバップ)のフレーズは、やはり管楽器が主体でできたものなので、ギターでは、フィンガリング、ピッキング等がロックフレーズよりも練習量が必要です。しかも、ジャズはアドリヴ音楽なので、その場で瞬時にフレーズがでなくてはなりません。

ジャズギターを挫折する人によくあるのですが、少し練習を試みたけれども、ロックギターのように形にならなかったため、

「やっば、ギターはロックでしょ!」「ジャズやっても売れないし」「ジャズって、おっさんやん!」

と言いつつ訳をしてしまうのです。あなたも、今まではそうだったかもしれません。

しかし、この本を手にとったあなたは、ジャズに憧れているはずで、今日から、迷わずこの本を使い練習して下さい。必ずジャズいプレイができるようになります。

池元 隆通

# 効果的な練習法とは？

## 「道を知ると、道を歩くのは違う」

頭で理解するだけでなく、練習し、実践して下さい。その道を歩き、におい、風景、風、温度、を感じ取って下さい。その時初めて、真の意味で、道を知る事になるのです！フレーズなど、「指の細胞に染み込んだ！」と思えるくらい弾くのです。

ジャズギタリストの常識で、ロックギタリストにないものは、

1. コード進行や弾く音を度数で理解している
2. 各コードのアルペジオがすぐに弾ける
3. 各コードに対応するスケールをすぐに弾ける
4. ジャズの常套フレーズを知っている

この4つはジャズギタリストにとっては当たり前の事ですが、ジャズに興味を持ち始めた段階の、ロックギタリストの人たちにとっては、どれかが欠けている事が多いと思われます。

「あ、オレ全部欠けてる・・・」

なんて人もいるでしょう。ロックギターでは上記の4つをマスターしていなくても、アドリヴがそれなりに形になるのです。筆者自身もジャズギターを始める前は、ロックギターを演奏していました。その頃は、

1. コード進行は度数ではなく、まる覚えで転調部分のみ気をつける
2. アルペジオは3声（トライアード）でスウィープピッキングフレーズを弾く
3. スケールは転調がない限りひとつのスケールで弾く
4. ジャズのフレーズは意味を理解しないままコピー&ペースト

と、こんな感じでした。

## ジャズへの近道

筆者は「ジャズをできるようにするには何か近道があるのではないか？」といつも考えていました。分厚いジャズの理論書を読んだり、ジャズプレイヤーのフレーズをコピーしたりしなくても、「何かを知ればすぐにジャズ的なプレイができるのではないか？」と。そして、紆余曲折しながらたどり着いた結論が、やはり上記の4つをマスターする事が絶対条件だということです。

「なんだ、やっぱりそうか」「うすうすは感じていたけども・・・」

と思いながら、練習に踏み切れないでいた人も、いるのではないのでしょうか？ それは当然です。なにせ新たに覚える事がたくさんですから。しかし、この4つの土台が身に付くとジャズのプレイができるようになるのです！これらを意識せず、練習を進めても遠回りするだけです。

そして、「なんだ、そんな事当たり前じゃないか」と思う日が必ずやってくるのです。

## アドリヴの材料

---

フレーズアドリヴの材料において最も重要なものなのです。

ビバップのアドリヴは、フレーズの組み合わせの妙だと言っても過言ではありません。気に入ったフレーズをできるだけ多く覚えるようにしましょう。

## フレーズの習得

---

- ① 2小節程度の長さのものを覚える。
- ② フレーズは必ず聴いて気に入ったものをストックするようにする。
- ③ フレーズ集などの譜面だけから入ったものは、よほど気に入らない限り忘れる可能性が高い。ですので、CD付き教則本や、指導者が弾いたフレーズ等で気に入ったもの、好きなプレイヤーのフレーズをコピーする。
- ④ プレイヤーのコピー譜というものも出ていますが、自分で採る事をオススメします。
- ⑤ 耳コピはフレーズを拾う過程において、音感や耳の訓練にもなり、拾ったフレーズの記憶定着率も抜群です。
- ⑥ 速いフレーズで聴き取りにくいものは、音程を変えずに速度を落とせるコピー用のCDプレイヤーなどが市販されていますので、それらを利用してもいいでしょう。

## フレーズは意味を理解する事が大切

---

普段から、自分が気に入った理由を把握しておく。例えば、「このフレーズは何度の音をこのタイミングで置いてるからカッコよく聴こえるんだ」というふうにあります。そうすることによって、後に自分でフレーズを作ったりする際に生きてくるのです。誰かのフレーズを弾いても、「結局マネじゃないか」などと言う人もいますが、自分の好きな短いフレーズを組み合わせる事によって、自然に個性が出てきます。

ビバップミュージシャンのプレイを聴いていると、よく使われる共通のフレーズ(常套フレーズ)がたくさんでてきます。しかし、「これは〇〇のプレイだ」とわかるものなのです。そして、これらの常套フレーズなしでは、弾いている本人も、聴いている人もジャズを感じないでしょう。

## アルペジオ(コードトーン)

---

ギターの指板上で各コードのアルペジオが見えている状態というのが、ジャズのアドリヴをする上では基本であり、土台となります。フレーズを分析、応用するにも必要です。

コードネームを見ると、瞬時にそのコードのアルペジオが弾けるようになりましょう。考えればわかる程度では実際のアドリヴでは通用しません。

もちろんアルペジオだけでフレージングするのは限度がありますが、アルペジオだけでできているカッコいいフレーズもたくさんあります。アルペジオはワングリップで弾ける5つのポジションを覚えるとギターの指板上を網羅できます。つまり最終的には5ポジションで覚える事が必要ですが、最初は6弦ルート、5弦ルートから始まるポジションを覚えることからスタートするといいいでしょう。

練習する際には、各コードトーンの度数を意識しながら弾くようにして下さい。頭の中で、1.3.5.7などと思いながら弾くといいいでしょう。

各コードタイプのアペジオを覚えたら、実際の曲のコード進行を使い、アルペジオのみでアドリヴの練習をしてみてください。止まったり、つまずいたりする箇所が出てくるかもしれません。そうしたら、その箇所を徹底強化し、再度コード進行に合わせ練習する。これを繰り返すといいいでしょう。

## スケール

スケールはダイアトニックコードに対応したいわゆるアヴェイラブルノート・スケールとドミナント7thコードに対応した数種類のスケールなどを覚えます。

今までアヴェイラブルノート・スケールを単純化してアドリヴをした人も多いのではないでしょうか。例えば、key-Cの場合、Dm7はDドリアンスケール、G7はGミクソリディアンスケールがアヴェイラブルノート・スケールですが、音の内容はCメジャースケールと全く同じなので、Dm7-G7-Cといったコード進行の時に「なんだ、結局Cメジャースケールを弾いてればいいじゃないか」と考えて弾いていた場合などです。

極端に言うと、「ギターの指板上でCメジャースケールを適当に弾いてる間にコードが進み、自動的にドリアンやミクソリディアンを弾いてることになる」だから、「ダイアトニック・スケールはメジャー・スケールのみ覚えればよい」と思ってる人もいるかもしれません。これはまさしくロック的思考でジャズをやるにはこの考えを捨てなければなりません。やはりDm7の時はDドリアン、G7の時はGミクソリディアンとして見えなければなりません。自分が今、コードに対して何度の音を弾いているかを理解する事はジャズにおいて絶対条件と言えます。

スケールはその内容を覚えるようにします。例えば、Dドリアンスケールだと、Dm7のコードトーンの1、 $\flat$ 3、5、 $\flat$ 7+テンションの9,11,13というふうに覚えます。そして、スケールで最もジャズらしさを感じるのは、ドミナント7thコードの時に使うスケールです。それらは、複数の選択肢がありますが、その中にオルタードスケール、リディアン7thスケールというのがあります。この2つのスケールは、メロディックマイナー・スケールと音の内容が同じです。メロディックマイナー・スケールは、ロックギタリストには馴染みが薄く、

「そういえば、そんなスケールあったな〜」

「知ってるけど、使った事ないな〜」

というふうな人が多いと思われまます。

ロックにおいてブルーノートペントニック・スケールのフレージングがなくてはならないように、ジャズにおいて、メロディックマイナー・スケール系のフレージングは最重要なのです。

(アルペジオ、スケールはPart3にまとめています。)

## CD トラックリスト

---

- 1 Billie's Bounce (模範演奏)
- 2~31 ブルースフレーズ
- 32 Anthropology (模範演奏)
- 33~67 リズムチェンジフレーズ
- 68 Straight No Chaser (模範演奏)
- 69 Blue Monk (模範演奏)
- 70 Tenor Madnes (模範演奏)
- 71 Oleo (模範演奏)
- 72 Rhythm A Ning (模範演奏)
- 73 Billie's Bounce (カラオケ)
- 74 Anthropology (カラオケ)
- 75 Straight No Chaser (カラオケ)
- 76 Blue Monk (カラオケ)
- 77 Tenor Madnes (カラオケ)
- 78 Oleo (カラオケ)
- 79 Rhythm A Ning (カラオケ)

## 練習の進め方

テーマとコード進行を覚える



付属 CD を聴き、気に入ったフレーズを練習する



付属 CD のカラオケに合わせ、フレーズを弾く



フレーズが出ない場所は、アルペジオ、スケールでその場をしのぐ

◎この練習を土台に、各自なりの練習方法を加えていくといいでしょう。

---

### 練習曲 (アドリブ例)

Billie's Bounce  
Key-F

ジャムセッションなどで、最もよく演奏されるブルースナンバーのひとつです。  
ロックでいうと、「スモークオンザウォーター」くらいメジャー度がある曲です。  
ミディアムテンポ～高速までいろんなテンポで演奏されます。

# Billie's Bounce

Music by Charlie Parker

F7 B<sup>b</sup>7 F7

TAB

B<sup>b</sup>7 B dim F7 D7

TAB

Gm7 C7 F7 D7 Gm7 C7

TAB

© SCREEN GEMS-EMI MUSIC INC.  
Permission granted by EMI Music Publishing Japan Ltd.  
Authorized for sale only in Japan

# Billies Bounce: Adlib ①

F7
B $\flat$ 7
F7

TAB C 5 7 6 5 8 6 5 8 6 8 7 6 8 9 9 5 6 7 8 7 6 5 8 7 6 7 4 6 4 3 5 2 3

B $\flat$ 7
Bdim7
F7
D7

TAB 5 3 7 7 6 10 9 7 6 7 6 5 8 6 5 8 7 5 7 4 6 4 3 5

Gm7
C7
F7
D7
Gm7
C7

TAB 3 5 2 4 5 2 3 5 3 6 5 3 4 5 5 8 7 10 8 9 8 7 10 8 7 10 9 9 9

F7
B $\flat$ 7
F7

TAB 5 7 6 8 5 6 8 7 6 9 10 8 9 10 8 10 9 10 9 10 11 7 8 10 10 9 8 8 7 10

B $\flat$ 7
Bdim7
F7
D7

TAB 10 12 13 11 13 13 11 9 11 9 8 11 10 8 7 6 5 8 7 5 5 8 6 5 7 5 8 7 5 4 5 7

## ●フレーズの解説について

次のページから、フレーズと、その解説を書いています。スケール名や、アルペジオ、その他の用語を用いています。スケールとアルペジオは、PART3 にまとめていますので、意味がわかりにくい時は、そちらを参照するといいでしょう。

コードや、フレーズの音は、度数で解説しています。前述しましたが、ジャズにおいて、音を度数で考える事は重要です。最初は面倒くさいかもしれませんが、音を度数でとらえる思考に持っていきましょう。

## ●解説で出てくる用語

アプローチノート	コードトーンを弾く前に置く、半音下（上）の音。
パッシングノート	コードトーンやスケールの音をつなげるための経過音。
クロマチック	半音階。
ブルーノート	メジャーの Key において、3.5.7 度の音が♭した音。
トライアード	コードのルート、3 度、5 度の事。

## ●コード機能

トニック	I、IIIIm7、VIIm7
ドミナント	V7、VIIIm7♭5
サブドミナント	IVmaj7、IIIm7

しかしながら、目標は、出したい時に弾きたいフレーズが出る状態なので、フレーズの意味は後から理解してもかまいません。極端に言えば、解説を読まなくてもいいぐらいです。意味を知りたくなかった段階で読んで十分です。まずは、「このコードの時は、このフレーズがハマる！」ぐらいの理解で OK です。つまり、弾いて練習する事が先決ということです。

それでは、付属 CD を聴き、気に入ったフレーズをどんどん弾いてみて下さい！

● EX.1

F7 - B<sup>b</sup>7 - (F7)

I7 - IV7 - (I7)

Ex.1 - ①



b3度の音から始まるが、3度のA音へのアプローチノートと考える。2小節目はIV - IV<sup>#</sup>dim という進行を想定したフレージングだ。IV<sup>#</sup>dimはV7と同じ働きをし(代理関係)、Iへ解決する機能がある。よって、Iへ向かう時、IV - IV<sup>#</sup>dimを想定したフレージングをしてもよい。

Ex.1 - ②



Dm7 (VI<sup>m</sup>7) のアルペジオから入ったフレーズ。  
F (I) の時に Dm7 (VI<sup>m</sup>7) のアルペジオを使用すると F6 のサウンドを出す事になります。  
2小節目は B<sup>b</sup>ミクソリディアンスケールになります。7th の A<sup>b</sup>音を1拍以上延ばし、ブルージーさを強調している。

Ex.1 - ③



このフレーズの2小節目3,4拍目はIV<sup>m</sup>(B<sup>b</sup>m)-I(F)というコードチェンジを想定したフレーズになっている。これも①のフレーズと同様で、IV<sup>m</sup>はV7と同じ働きをするため、Iへ解決する機能がある。よって、Iへ向かう時、IV<sup>m</sup>-Iを想定したフレージングをしても良い。

## ★コードチェンジ バリエーション

ブルースチェンジのバリエーションを見ていきましょう。  
ロックやポップスでは決まったコードチェンジで演奏しますが、ジャズにおいては、その場の雰囲気やコードに変化をつける事が多々あります。これはジャズの醍醐味のひとつです。

### 1 ~ 4 小節目

F7	B <sup>b</sup> 7	F7	F7
----	------------------	----	----

↓

F7	B <sup>b</sup> 7/Bdim	F7	Cm7/F7
----	-----------------------	----	--------

このバリエーションは、よく使われるチェンジだ。  
2小節目をⅣ - Ⅳ<sup>#</sup>dim にしている。4小節目はF7をⅡ - V化している。(次のコードB<sup>b</sup>をⅠと考える。)ドミナント7thコードをⅡ - V化する事は頻繁に行われる。  
これは、他の曲においても同様です。同じ理由から、1小節目のF7をCm7/F7にしてもよい。

F7	B <sup>b</sup> 7	F7	F7
----	------------------	----	----

↓

Cm7	Fm7	Cm7	F7
-----	-----	-----	----

1小節目のCm7は、F7をⅡ - V化してできるCm7(Ⅱm7)だけを使うという意味だ。  
2小節目のFm7も同様で、B<sup>b</sup>7をⅡ - V化してできるFm7だけを使う。  
3~4小節目はF7が2小節続く所を、Ⅱ - V化。①でドミナント7thをⅡ - V化する事は頻繁に行われると書きましたが、ドミナント7thが2小節続く場合、もっと頻繁にⅡ - V化が行われます！

### 4 ~ 8 小節目

B <sup>b</sup> 7	B <sup>b</sup> 7/Bdim	F7	D7
------------------	-----------------------	----	----

↓

B <sup>b</sup> 7	B <sup>b</sup> /B <sup>b</sup> m	F	Am7/D7
------------------	----------------------------------	---	--------

5小節目のB<sup>b</sup>7/Bdim(Ⅳ / Ⅳ<sup>#</sup>dim)、B<sup>b</sup>/B<sup>b</sup>m(Ⅳ / Ⅳm)は、ともにⅠへ解決する機能を持つため、代理機能がある。Fというのは、本来のトニック(Ⅰ)へ戻しただけだ。ブルースのトニックのF7は、Fにブルーノート音(b7)を使い、ブルージーさを強くしている。8小節目は、D7をⅡ - V化している。

B <sup>b</sup> 7	B <sup>b</sup> /Bdim	F7	D7
------------------	----------------------	----	----

↓

Fm7	Fm7	F	Am7 <sup>b</sup> 5/D7
-----	-----	---	-----------------------

5.6小節目をFm7にしている。これは、B<sup>b</sup>7をⅡ - V化してできるFm7だけを使用ということだ。8小節目は、上の例と同じで、D7をⅡ - V化していますが、Am7<sup>b</sup>5にしています。これは、次にGm7へ向かうため、マイナーのⅡ - Vという意味だ。マイナーのトニックへ向かう時は、Ⅱm7をⅡm7<sup>b</sup>5にすることが多い。

# PART 4 Blues & Rhythm Changes

## スタンダード曲

### アドリブ例

PART4 では、PART1.2 で紹介したフレーズを随所に散りばめたアドリブ例を用い、スタンダード曲で応用します。

#### Straight No Chaser Key-F

この曲もよく演奏されるブルースで、速めで演奏する事が多い。テーマはクロマチックな感じで、ギターで弾くには意外に難しいです。しかし、知っていないと恥ずかしい曲ですので、弾けるようにしときましょう。

#### Blue Monk Key-B<sup>b</sup>

この曲は、ゆっくりめでの演奏が多い。Key-B<sup>b</sup>なので、Key-F で覚えたフレーズを移調してアドリブするといいいでしょう。ロックギター経験者は、こういうブルースだと、いわゆるブルーノートペンタトニックスケールで、全体を押し切ってしまうがちになりますが、ジャズくなるためには、そこを押さえましょう(笑)  
時折ブルーノートペンタトニックでのフレーズが入ると、「イエイ！」となります。

#### Tenor Madness key-B<sup>b</sup>

B<sup>b</sup>でブルースをやろうということになると、この曲を演奏する事が多い。PART1 でのフレーズを移調したものを、多く使ったみましたので、参考にしてみてください。ソニー・ロリンズのアルバム「Tenor Madness」で、ソニー・ロリンズとジョン・コルトレーンの熱いバトルが繰り広げられているので、是非聴いてみてください。

#### Oleo Key-B<sup>b</sup>

循環をやろうとなれば、この曲か、前述の Anthropology が多い。高速でやる事が多く、ギタリストとしてふんばりどころです。

#### Rhythm-A-Ning Key-B<sup>b</sup>

セロニアス・モンクの循環曲。Anthropology や、Oleo ほどメジャーではないですが、知っておくべき曲です。

《Blues スタANDARD曲》



## Straight No Chaser

Music by Thelonious Monk

F7 B<sup>b</sup>7 F7

T  
A  
B

B<sup>b</sup>7 B<sup>dim</sup>7 F7 D7

T  
A  
B

Gm7 C7 F7 (D7 Gm7 C7)

T  
A  
B

© 1962 by THERONIOUS MUSIC CORPORATION  
Rights for Japan assigned to Watanabe Music Publishing Co., Ltd.

# Straight No Chaser: Adlib ①

F7 B<sup>b</sup>7 F7

B<sup>b</sup>7 B<sup>dim</sup>7 F7 D7

G<sup>m</sup>7 C7 F7 D7 G<sup>m</sup>7 C7

F7 B<sup>b</sup>7 F7

B<sup>b</sup>7 B<sup>dim</sup>7 F7 D7

## 監修者 あとがき

「ロックギターからジャズギターへの第一歩」  
このアイデアを池元君から最初に聞いて、私は一瞬はっと思いました。  
なるほど・・・、そう言えば自分も昔、そんな事で悩んでいた時期があったっけ・・・  
じつは私も、最初はロックギターを弾いていました。  
そして、あるきっかけでジャズに転向して行ったのですが、やはりその頃、今この本を手にとった  
読者の皆さんと同じ悩みを抱えていたんです。

ジャズは理論も大切ですが、基本はロックと同じで、とにかくフレーズを覚えまくる事です。  
コード進行にそって当てはめて行って、そして、他のフレーズとも入れ替えて見る。  
そう、まるで塗り絵やパズルに似ていますね。  
そう考えると、意外と簡単なものです。

この本の著者の池元隆通君は、信頼のおける門下生の一人です。  
「ジャズって、どうやって練習すればいいんだろう?」と迷っていたら、まずは肩の力を抜いて、  
気楽に、この本を読んで実践してみてください。  
きっと、その悩みや迷いが、すっと消えて行くはずですよ。

皆さん、頑張ってくださいね!

**監修者: 加藤 泉**

## 著者 あとがき

本書によって、ジャズ感をたっぷり味わえた事と思います。  
その味を忘れないように、何度も反復練習をする事が必要ですよ。  
本文中にも書きましたが、理論は後からで構いませんので、  
まずは、フレーズを楽しみながら手に染み込ませてください。  
理論は、自分が「知りたい」と思った時にしか吸収されません。

本書は、「よし、アルペジオ、スケール覚えるぞ!」と思った読者が、  
おそらく何度も見返すであろうと思われる、  
アルペジオ、スケール部分を見やすく構成しました。ご活用いただ  
ければと思います。

本書を取り組んでいただきありがとうございます。  
ジャズギターを楽しんで下さい!

最後に、  
本書出版にあたり多大な協力をいただいた、  
中央アート出版社社長吉開狭手臣氏、担当の藤田哲也氏、  
付属CDのカラオケを制作していただいた中原健太郎氏、  
監修をしていただいた師匠の加藤泉氏に、  
心より感謝を申し上げます。

**著者: 池元隆通**



## 監修者：加藤 泉

東京大田区生まれ。19才よりプロとして活動。ジャズ・ギタリストの潮先郁男氏に師事する。

入学1年後に稲森康利(p)カルテットに参加、その後、田畑貞一(ds)カルテット、オールアメリカン・グループ"aka-DIG"や、ジミー・スミス(ds)カルテットなどを経て、現在自己のリーダー・グループで都内及び全国のライブハウス、コンサートホールで活躍している。

1999年頃から10回近くアメリカに渡り、ジョージ・ギャフニー(p)、チャールズ・オーエンス(ts)、ジョン・ハード(b)、ロイ・マカーディ(ds)、ポール・ハンフリー(ds)、ジェームズ・ガドソン(ds)など多くの世界一流ミュージシャンと共演、レコーディングしている。

代表作は、● The Best Things In Life Are Free 「自由は最高!」(2005.12)、● The Indication「インディケーション」(1998.12)など。

ヤマハ音楽教室、イナモリメソッド研究会講師を歴任、現在は自己のCTAジャズギター教室を開設し、多くのギタリストを育てている。著書に「ジャズギター・アドリブ教本」「コンテンポラリー・ジャズギター②／イントロ&エンディングの技法」「クラシック・イン・ジャズギター②、④、⑤」「ジャズギターG30」「Jazzyに聴かせるクラシック②、④」(共に、中央アート出版社刊)がある。

《CTAジャズギター教室》04-2943-2155、090-2175-8536、(e-mail) izmcat@ybb.ne.jp

《オフィシャル・ホームページ》<http://izumikato.at.infoseek.co.jp/>

《You Tube映像》[http://www.youtube.com/results?search\\_query=加藤泉&search\\_type=&aq=f](http://www.youtube.com/results?search_query=加藤泉&search_type=&aq=f)

<[http://www.youtube.com/results?search\\_query=加藤泉&search\\_type=&aq=f](http://www.youtube.com/results?search_query=加藤泉&search_type=&aq=f)>



## 著者：池元 隆通 (いけもと たかみち)

〈Jazz Guitar〉

大阪出身。

15才よりアコースティックギターを始める。16才よりエレキギターも始め、ロックギターに傾倒しバンド活動を始める。20代よりプロ活動を始める。

ベストギタリスト賞やバンドでのグランプリ賞、ギターマガジン誌のフランクギャンパレコンテストで熟演賞など、コンテスト等での受賞歴も多数。

演奏活動以外にも、執筆活動として、バンドスコアの採譜、アレンジ等、東京音楽書院などより多数発刊。その後、チャーリー・パーカーに衝撃を受け、ジャズの道へ。ジャズギターを加藤泉氏に師事する。現在、ジャズライブハウス等で活動。ヤマハミュージック東京、山野楽器でギター講師もつとめている。

### レッスン会場のご案内

ヤマハミュージック東京 自由が丘店 03-3718-7394  
山野ミュージックサロン 相模大野店 042-767-1481

## ジャズギター アドリヴの最短距離

CDB154100230 (1.0x)

2010年1月25日 初版発行



楽譜浄書：i music

表紙：DECO design store

表紙印刷：倉敷印刷株式会社

製本：(有)笠松製本所

監修者：加藤 泉

著者：池元 隆通

発行者：吉開 狭手臣

発行所：CAD 中央アート出版社

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-11-4

TEL 03-3861-2861 (代表)

FAX 03-3861-2862

振替口座 00180-5-66324

日本音楽著作権協会 (出) 許諾第0915877-901号

本社への御意見・御希望は E-mail: [info@chuoart.co.jp](mailto:info@chuoart.co.jp)  
ホームページ: <http://www.chuoart.co.jp>

ISBN978-4-8136-0551-5

(本体3,000円 楽譜2,000円/CD1,000円 分売不可)

本書の無断複製・転載を禁じます。  
落丁・乱丁の際はお取替え致します。